

# **北長迫横穴群発掘調査概報**

平成5年3月

**益田市教育委員会**

## 序

益田市は高津川と益田川のよって形成された広大な平野を擁していることから古代以来数多くの遺跡が営まれてきましたが、特に古墳時代には大元1号墳やスクモ塚古墳、小丸山古墳などのよく知られた大型古墳が築造され、後期には群集墳として鶴ノ鼻古墳群や北長迫、片山の各横穴群が相次いで築かれました。

中でも北長迫横穴群はかつて20数基の横穴が存在したといわれますが、昭和40年代後半から度重なる開発によりそのほとんどが消滅することとなり、現在は丘陵の先端に数基が残るのみとなりました。この横穴群についてはこれまでに3度の発掘調査が行われていますが、このたびは新たに宅地造成が計画されたため発掘調査を実施し、益田の古代を解明するうえで、新たな成果をあげることができました。本書はその概要をまとめたものですが、多少なりとも地域の歴史、文化財の理解に役立てていただければ幸いに思います。

最後になりましたが、調査にあたりまして多大なご協力をいただきました土地所有者及び株式会社三洋不動産並びに関係者各位に対して厚くお礼申し上げます。

平成5年3月

益田市教育委員会  
教育長 田 中 稔

## 例　　言

1. 本書は平成4年度（1992年度）に株式会社三洋不動産からの委託を受けて実施した宅地造成に伴う北長迫横穴群発掘調査の概報である。

2. 発掘調査を行った遺跡は次のとおりである。

島根県益田市赤城町口582番1所在 北長迫横穴群1基

3. 調査は次の組織で行った。

調査主体 益田市教育委員会 教育長 田中 稔

事務局 田村尚弥（社会教育課長）、岡崎松男（同課長補佐）、矢富剛志（同体育文化係長）、長嶺勝良（同主事）

調査員 木原 光（社会教育課体育文化係主事）

4. 発掘作業には次の方々に参加していただいた。

岩本哲夫、岩本末子、杉内恵美子、永安ユキエ

5. 掘図中の方位は磁北を示している。

6. 本書の編集と執筆は木原が行った。

## 目　　次

I. 調査に至る経過 .....	1
II. 遺跡の位置と歴史的な環境 .....	1
III. 発掘調査の概要 .....	4
(1) 遺構 .....	6
(2) 遺物 .....	8
IV. まとめ .....	10

## I. 調査に至る経過

北長迫横穴群は益田平野の南西部、益田市赤城町（旧上吉田町）に所在し、市街地に接して北に突き出した丘陵に立地する。かつて20基以上の横穴が存在したが、一帯は堅く締まった砂礫層の地質であることから、良質の埋立土として採土工事が進められてきている。近年ではこの横穴群が分布していた丘陵の大半は削り取られて旧来の地形は大きく変貌し、丘陵先端部が辛うじて残り、ここに4基（うち調査済み2基）の横穴が残存するのみとなっている。

さて、昭和60年にこの丘陵先端部分に宅地造成が計画されたが、予定地内に1基の横穴が存在するため益田市教育委員会と事業者との間で取り扱いの協議が進められたが、この時には開発計画が具体化せずに発掘調査の実施には至らなかった。その後、事業者と土地所有者との間で宅地造成の合意がなされ、平成4年から益田市教育委員会との協議が再開されたが、一帯は周囲に土取りのため屹立した状態で残され、丘陵裾部に接する宅地へ土砂が流出することなどから現状保存は困難との判断に至り、事前に事業者から委託を受けて益田市教育委員会が発掘調査を行うこととなった。

現地調査は平成4年6月26日から同年7月10までの間で実施した。

## II. 遺跡の位置と歴史的な環境

益田市は島根県の西端に位置し、高津川と益田川の二大河川によって形成された益田平野とその周囲の低丘陵を中心に遺跡が集中している。

縄文時代では後晩期の安富王子台遺跡（安富町）、古墳時代には前期古墳として三角縁神獣鏡が出土した四塚山古墳（下本郷町）、大元1号墳（遠田町）、中期には国史跡スクモ塚古墳（久城町）、さらに後期の群集墳として県史跡鶴ノ鼻古墳群（遠田町）、北長迫横穴群（赤城町）、片山横穴群（東町）などが築造された。

また、中世には県史跡七尾城跡、三宅御土居跡を中心に地方豪族益田氏に関連する城館跡が30以上広く市域全体に分布している。

この中で北長迫横穴群は石見地方における代表的な横穴群としてよく知られており、益田平野の南西部、北へ細長く伸びる丘陵のひとつ、通称北長迫の丘陵に位置している。横穴は丘陵西側の急斜面から先端部にかけて築造され、昭和38年刊行の「島根県遺跡目録」によれば24穴と記載されているが、これらはおそらく開口したもののみで、未開口のものを含めれば50基以上の横穴があったと推定されている。横穴はその立地から全体でI

～IV群のまとめが指摘されている。今回調査の対象となった横穴はこの内のI群に含まれるものである。

調査経過としては、昭和47年から始まった宅地造成を前提とした採土工事に伴い同年に5基、昭和49年に16基の横穴が島根県教育委員会によって調査され、昭和58年には丘陵先端部の3基について益田市教育委員会によって発掘調査が実施されている。

なお、北長迫横穴群の近くには、益田中学校校庭に面した丘陵の斜面に16基の横穴を数えた南長迫横穴群が存在したが、校庭拡張、採土工事によって消滅した。また、同校裏には小提横穴（地下式横穴か）もあった。さらに付近には日赤裏横穴群、三井裏横穴群も位置するなど一帯は益田地域でも特に横穴の密集する地帯であったといえる。



第1図 北長迫横穴群分布図（昭和47年当時）  
（『島根県埋蔵文化財調査報告書』第V集より）



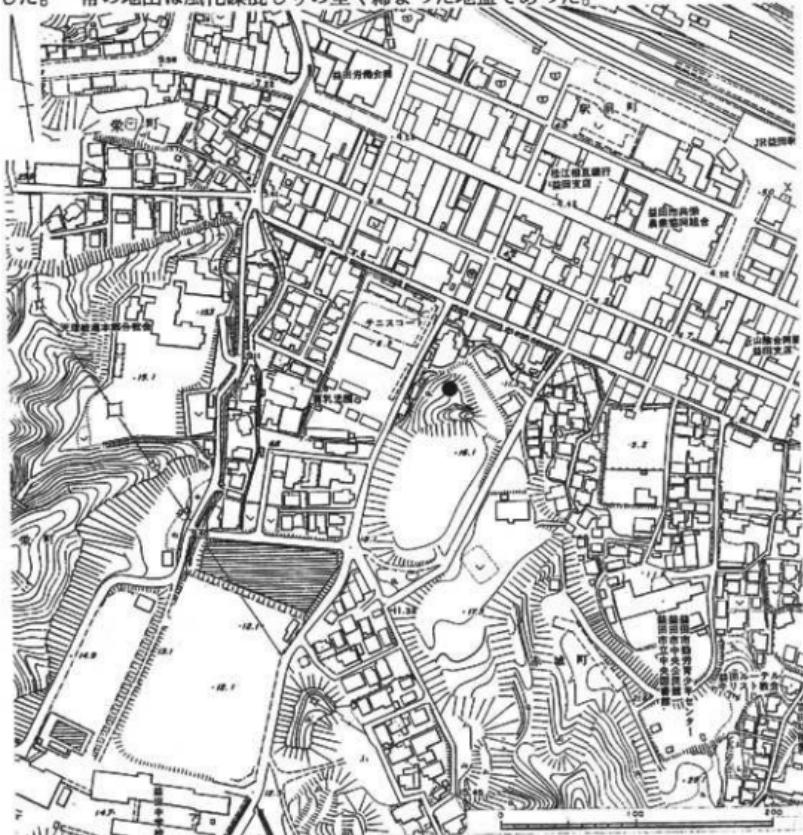
1. 北長迫横穴群 2. 南長迫横穴群 3. 小提横穴群 4. 日赤裏横穴群 5. 三井裏横穴群 6. 片山横穴群  
 7. 秋葉山古墳 8. 小丸山古墳（市史跡：前方後円墳52m） 9. 四塚山古墳 10. スクモ塚古墳（国史跡：  
 前方後円墳？100m?） 11. 高浜古墳 12. 薦ノ鼻古墳群（県史跡） 13. 大道古墳 14. 大元1号墳（前方  
 後円墳87m） 15. 三宅御土居跡（県史跡） 16. 七尾城跡（県史跡） 17. 中世今市船着場跡（市史跡）

第2図 横穴群の位置と周辺の主要な遺跡

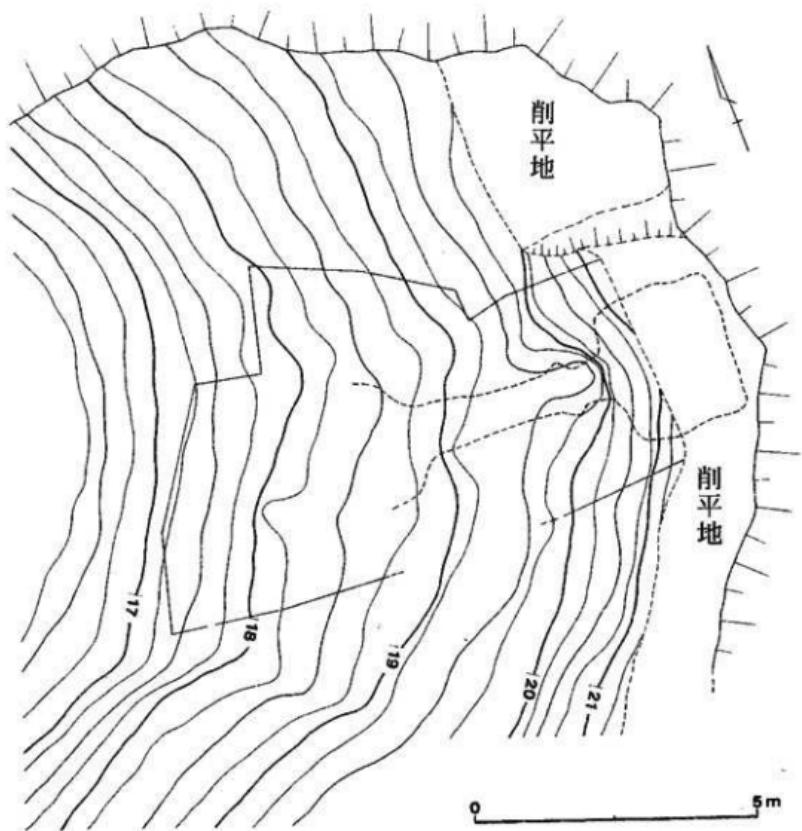
### III. 発掘調査の概要

調査対象となったのは横穴1基で、現状ではわずかに開口していた。

発掘調査は周囲の地形を等高線25cmで測量した後、横穴の主軸線上と、羨道入口及び前部で横断方向に堆積土層の観察のための柱を残して人力により発掘を行った。まず、表土を除去した段階で暗黒褐色土が確認されたためこれを手がかりに遺構の検出を進め、必要に応じて写真、土層断面図を記録しながら、完掘後に全体の平面図、断面図等を実測した。一帯の地山は風化疊混じりの堅く締まった地盤であった。



第3図 調査横穴の位置（現在）



第4図 横穴と周辺の地形

## (1) 遺構

発掘した横穴の玄室長は2.1m、玄室幅は奥壁部、玄門部とともに2.4mで、平面形はやや横長の長方形を呈し、隅部は丸みがある。玄室床面の標高は19.7mを測り、天井中心部は床面から約1.5mの高さで、天井部に若干の剥離はあるものの、その断面形はいわゆるかまぼこ形を呈していた。なお、玄室内にはノミ痕など加工痕跡は確認されなかった。

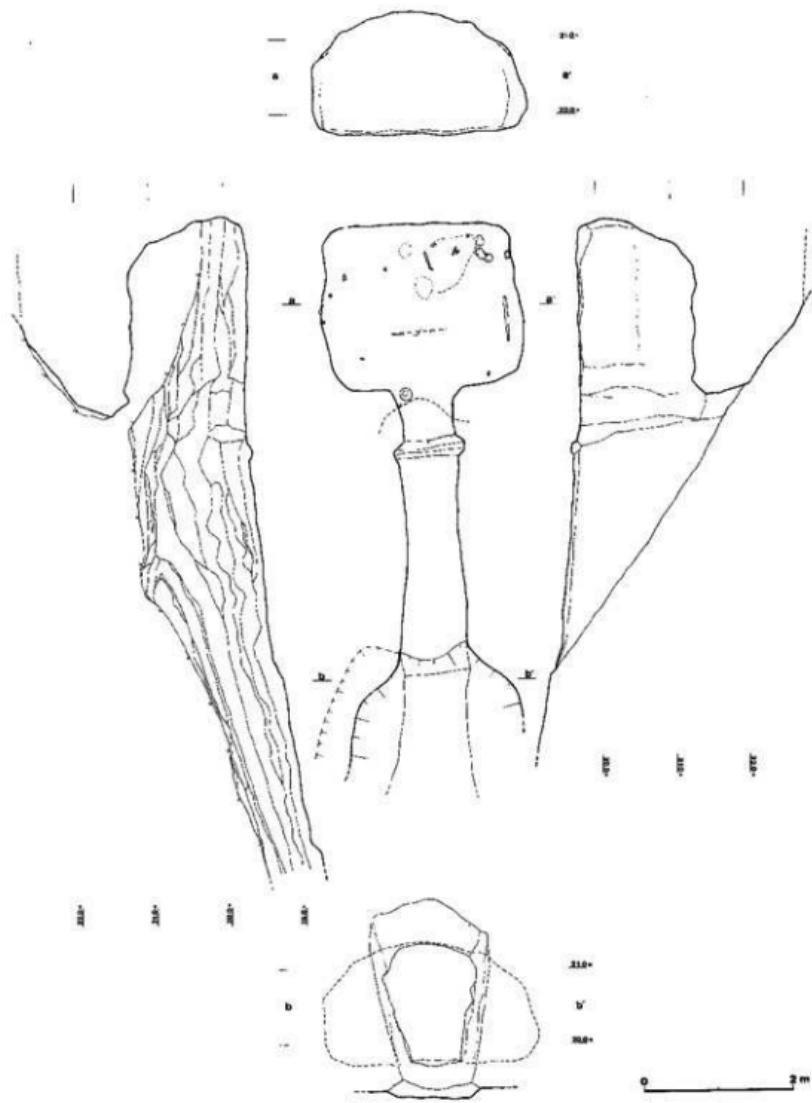
羨道部は長さ0.6mと短く、幅は0.7mで、羨道入口部分には幅約20cm、深さ約5cmの浅い講状の遺構があり、これは羨門の閉塞に関わる割り込み跡と考えられた。なお、これまでの調査ではこの割り込み部分に閉塞装置の押さえに使用されていたと思われる積石が確認される例が多かったが、この横穴にはそのような石材は見当たらなかった。

前庭（墓道）は長さ2.5mで、羨道前の幅は0.8m、中央部でわずかに狭まり、前庭端近くでは再び0.9mと幅が若干広がる細長い形状である。羨道前から前庭端にかけて約30cmほど下がっており、さらに前庭端の前面には若干の段差があり、両側が地山を含めて幅約2.7mほど内弯気味に浅く削られていた。

なお、横穴の主軸は磁北に対して85度西へ振っていた。

玄室奥壁部には約30cmの土砂が堆積し、玄門部では盜掘に伴う移動や開口部へ流入した土砂が床面から1.6m堆積していたが、上層部分は攪乱された土層である。前庭部には堆積土の下層に追葬や盜掘に伴うと思われる軟質の暗黒褐色土などがあり、羨道や前庭の横断面にも盜掘の痕跡と思われる同質の土層の落ち込みが観察された。また、羨道入口部分に縦方向の土層が認められたが、これについては閉塞に関わる痕跡の可能性も考えられる。玄室内では床面上に位置する遺物はなかったが、床面上約10cmの面にある程度の遺物がまとまっていたことからこれらは追葬による遺物と考えられる。

遺物は南東の玄室隅部分に比較的集中した状態で発見され、被葬者を納めた棺あるいは被葬者を乗せた板の台と考えられる20cm程度の河原石も存在し、また床面上に堆積した土層上に暗黒褐色を呈する変色部分も3箇所に認められた。



第5図 横穴平面図及び断面図

## (2) 遺物

出土品は玄室内から須恵器 8 点、耳環 2 点、鉄製品 12 点などが発見され、前部前面からも少なくとも壺 2 個体分の須恵器片が採取されたが、横穴墓としては埋葬時に供献される須恵器などの数量が少なく、玄室内の下層にも現在のベルトの革や金具が混入していたことからなどから比較的最近まで盗掘を受けてきたと考えられる。実測図のうち須恵器の壺口縁部（8・9）は前部前面から出土したが、それ以外は全て玄室内から発見された。須恵器の器種としては蓋壺、壺、壺などがあった。

1 は口径 1.3 cm の完形の蓋で、焼成時に変形したものである。2 は内面に小さな返りが付く蓋で、外面上部にカキメを巡らせている。蓋上部は欠いているが、小さな乳頭状つまみが付くもので、北長迫横穴群の他鶴ノ鼻古墳群でも多数出土している器種である。口径は 1.1 cm とやや小さく、椭状の壺とセットになるもので、1 よりは後出するものである。

3、4 は口径 1.5 cm 前後のやや大きめの壺で、4 は内弯気味に立ち上がるが、赤褐色を呈していた。

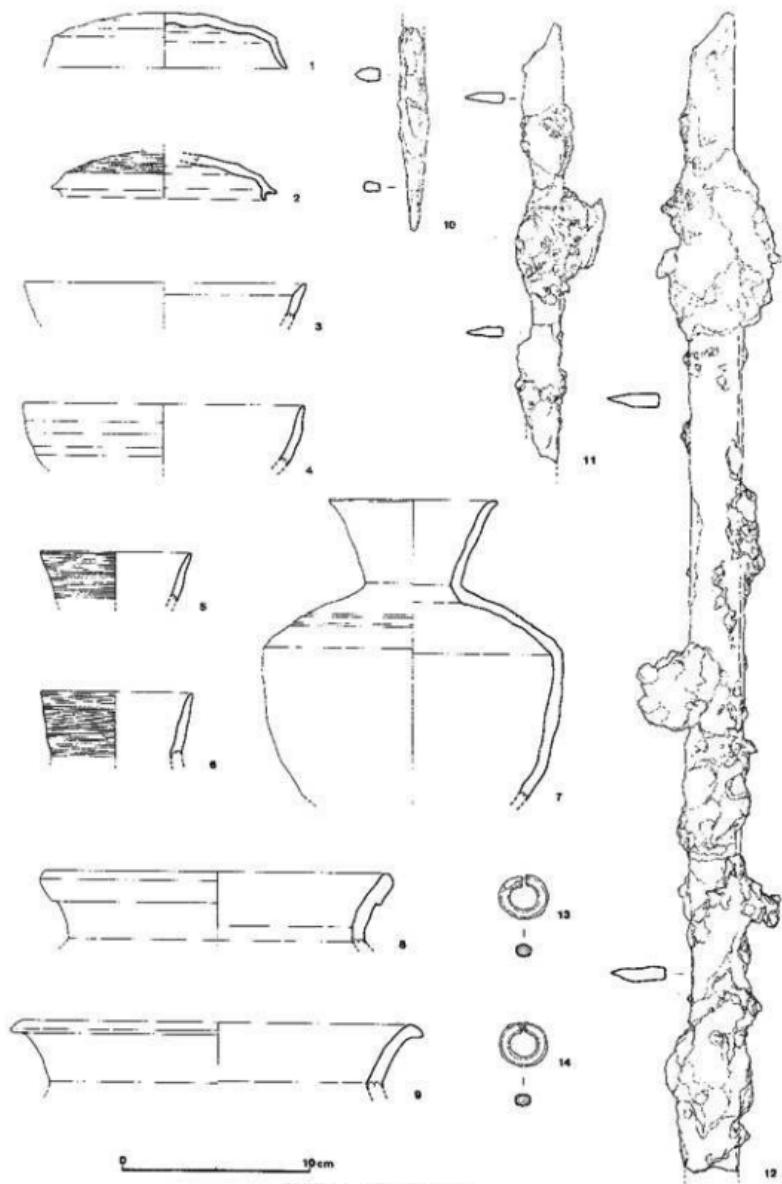
5、6 は口径約 8 cm の口縁部で、外面にカキメを施しており、ともに提瓶の口縁と考えられる。鶴ノ鼻古墳群からも同様の口縁部を持つ提瓶が出土しており、把手部分は痕跡のみが残る瘤状を呈していた。7 は外反して開く口縁をもち、肩部が張って陵をなす壺である。口径は 9 cm で、肩部に 2 条の沈線を巡らせ、底部は欠いているが高台が付かない丸底の壺と考えられる。焼成が不良で、軟質である。

8、9 は壺の口縁である。8 は口径 1.9 cm で、外反する口縁外端部は折り曲げたように比厚している。9 は口径 2.2 cm の口縁で外反する口縁の端部は外側につまみ出している。

鉄製品は 3 点を図に示した。10 は刀子と思われるが、先端部は欠損している。11、12 は太刀で、ともに切先が残る。鋸びや腐食による剥離などが進んでいるが、11 は刀身幅 2.0 mm、厚さ 6 mm、12 は刀身幅 2.8 mm、厚さ 8 mm を測り、12 は少なくとも 7.0 cm 以上の全長があったと考えられる。

13、14 は銅製の耳環で、13 は長径 2.6 cm、短径 2.4 cm、14 は長径 2.5 cm、短径 2.4 cm を測る。断面はともに橢円形で、部分的に鍍金が残っている。

出土した須恵器は 6 世紀末以降 7 世紀代のものと考えられる。



第6図 遺物実測図

#### IV. まとめ

益田平野南部の丘陵地では鶴ノ鼻古墳群のように横穴式石室を持つ小古墳の群集墳は存在せず、横穴墓の群集によって後期群集墳が形成されているという特色があり、北長迫横穴群をはじめ片山横穴群（30基以上）、多田横穴群（9基）、南長迫横穴群（16基）など100基以上の横穴が早くから知られてきたが、石見地方の横穴は大田市、益田市など限定した地域に分布し、かつ発掘調査に遅れたことから出雲地方における形態論、年代観によって捉えられてきた。その中で、益田地域の横穴の特長は一般的に横断面が方形で、天井の低いタイプと考えられ、築造の時期は山本清氏による須恵器編年のⅢ期後半に属すると考えられてきた。

しかし、昭和47年と49年に島根県教育委員会によって実施された北長迫横穴群の発掘調査の結果、大方の横穴は方形プラン平天井（かまぼこ形を含む）形式で、須恵器の形態から古墳時代末期（山本編年Ⅳ期末）ないし奈良時代前半に属すると推定された。さらに、石西地方における横穴墓の造営は、出雲地方で消滅する時期にむしろ盛行るとし、両地方間に顕著な地方差が存在するという重要な見解が示された。

今回調査対象となった横穴墓は、玄室の幅がやや長い横長の長方形の平面形で、天井に屋根状の傾斜が認められず、壁と天井の境界が不明瞭で玄室の横断面がいわゆるかまぼこ形を呈する平天井構造で、これまで指摘されてきた典型的なタイプのものであった。盗掘のため築造当時の埋葬方法や副葬品の構成は把握できなかったが、群全体を考察する上で貴重なひとつの横穴墓の資料を得ることができた。

北長迫横穴群については県内でも最大規模の横穴群として注目され、今回を含めこれまで4次の発掘調査が実施されたが、今後は横穴墓が群集する地域と横穴式石室を持つ小古墳が群集する益田地域における後期群集墳の在り方としての地域内差、横穴群の被葬者の実態や構成、さらに当地域における須恵器の様相の変遷など全体的な視点を持ちながら資料整理と考察を行う必要がある。

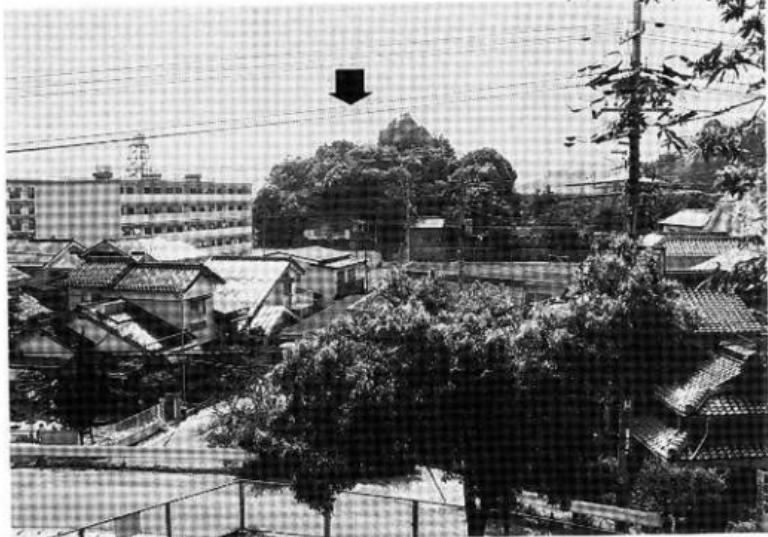
（参考文献） 1971 山本 清「山陰の須恵器」「山陰古墳文化の研究」

1974 前島巳基「益田・北長迫横穴群」「島根県埋蔵文化財調査報告書」第V集 島根県教育委員会

1983 田中義昭「石見地方における横穴墓の形態と時期」「山陰文化研究紀要」第23号 島根大学

1984 横山純夫「北長迫横穴群」「第12回山陰考古学研究集会資料」

1985 「日脚遺跡」島根県教育委員会

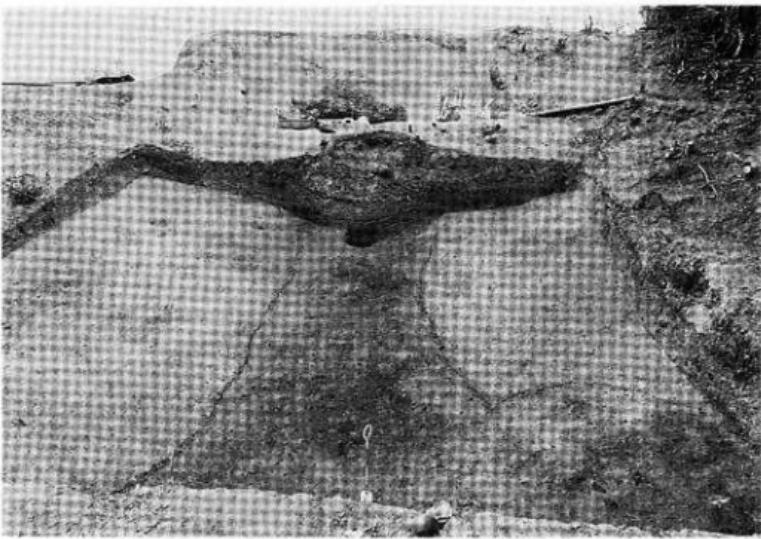


調査横穴遠景(西から)

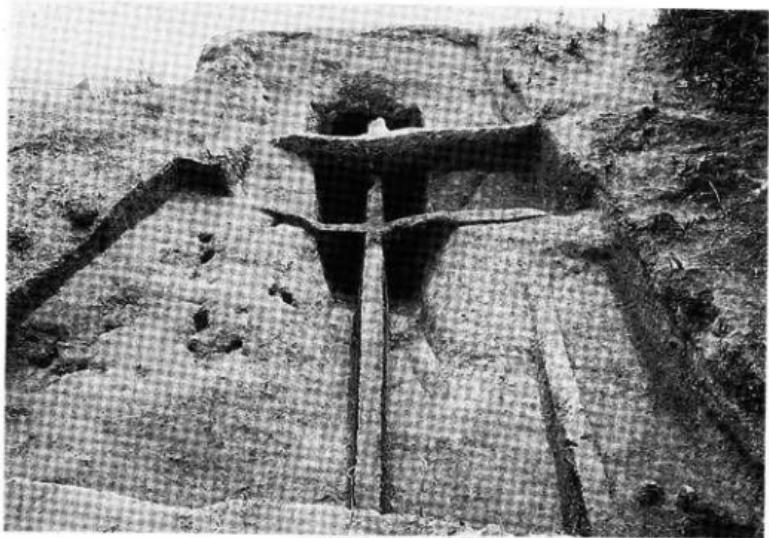


調査前開口状況

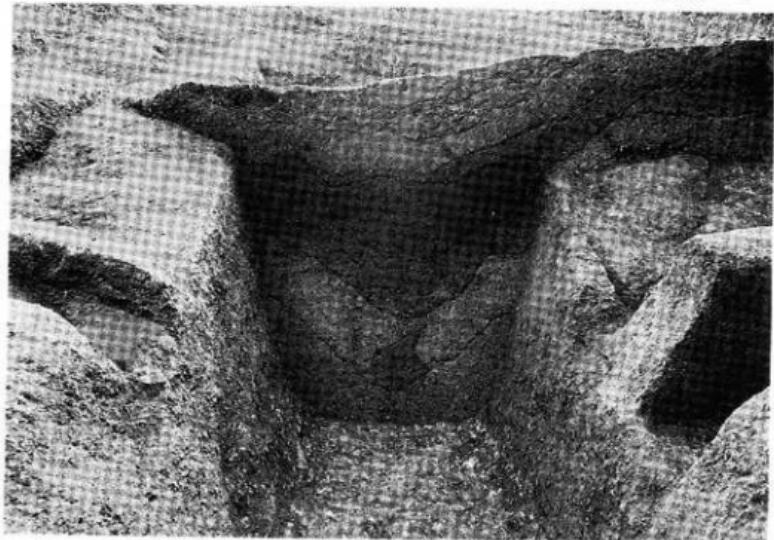
図版 2



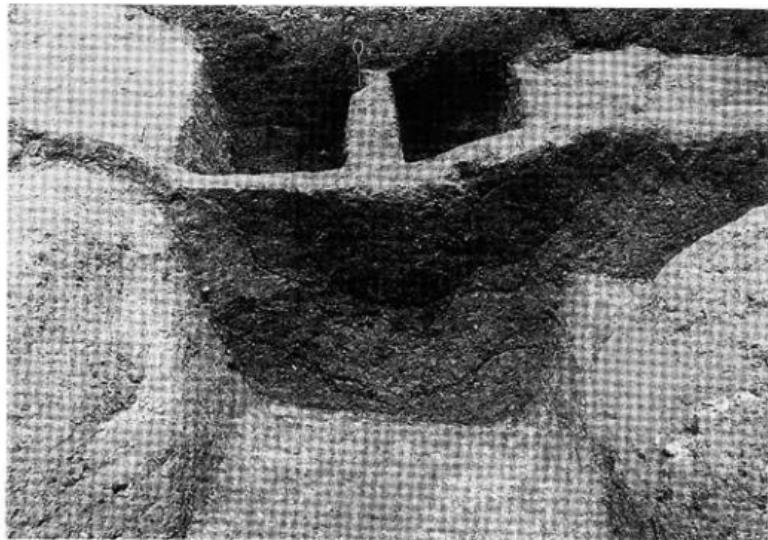
表土除去後暗黒褐色土確認状況



土層観察用珪設定位状況



美道部土層堆積状況

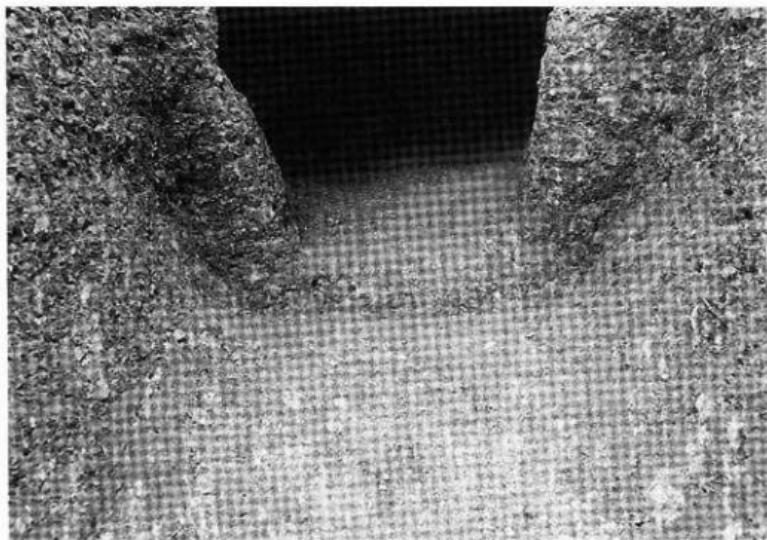


前庭部土層堆積状況

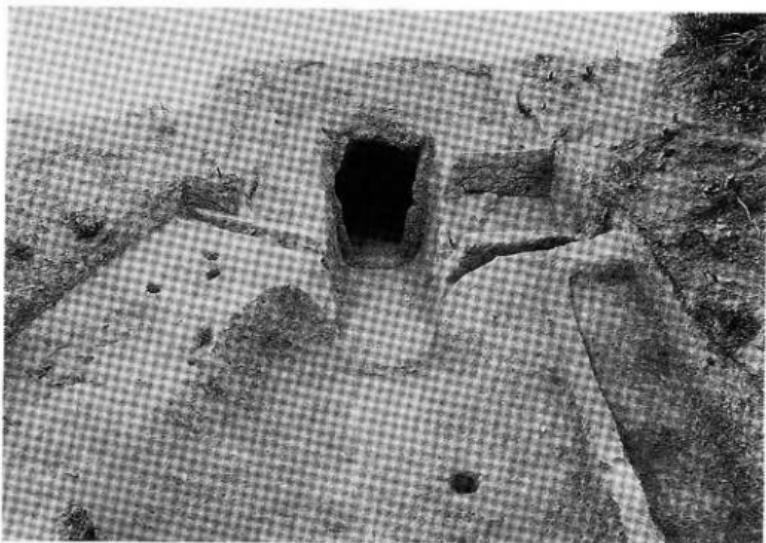
図版 4



前庭部土層堆積状況



羨道部入口部分剝込跡

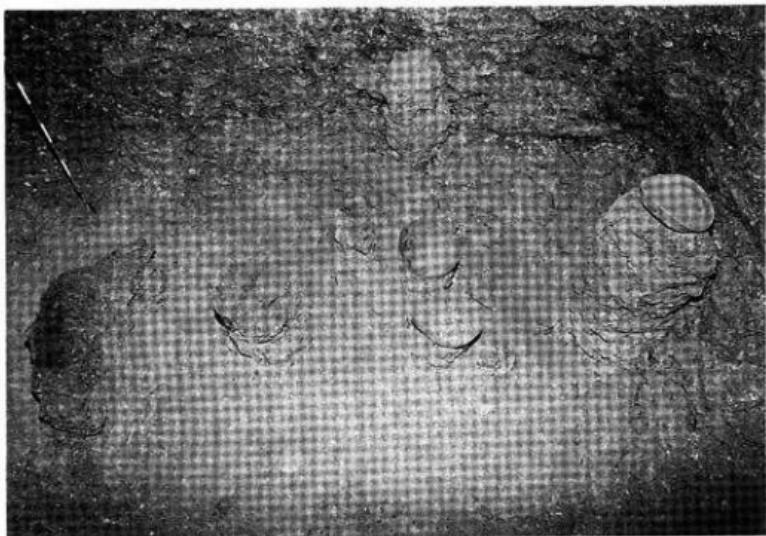


完掘後全景

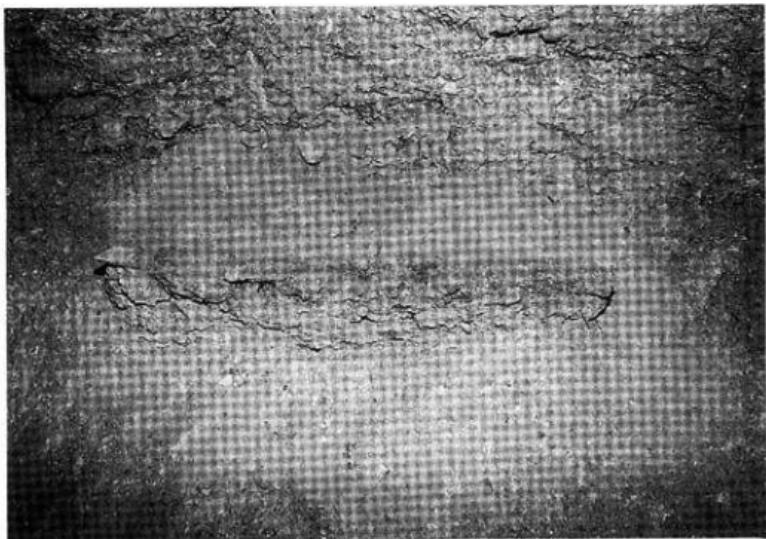


玄室内

图版 6

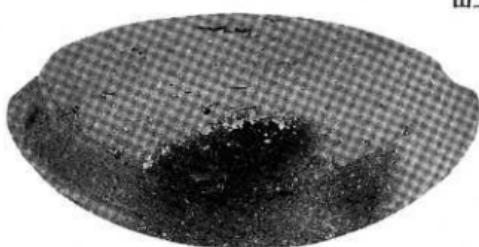


玄室内遗物出土状况



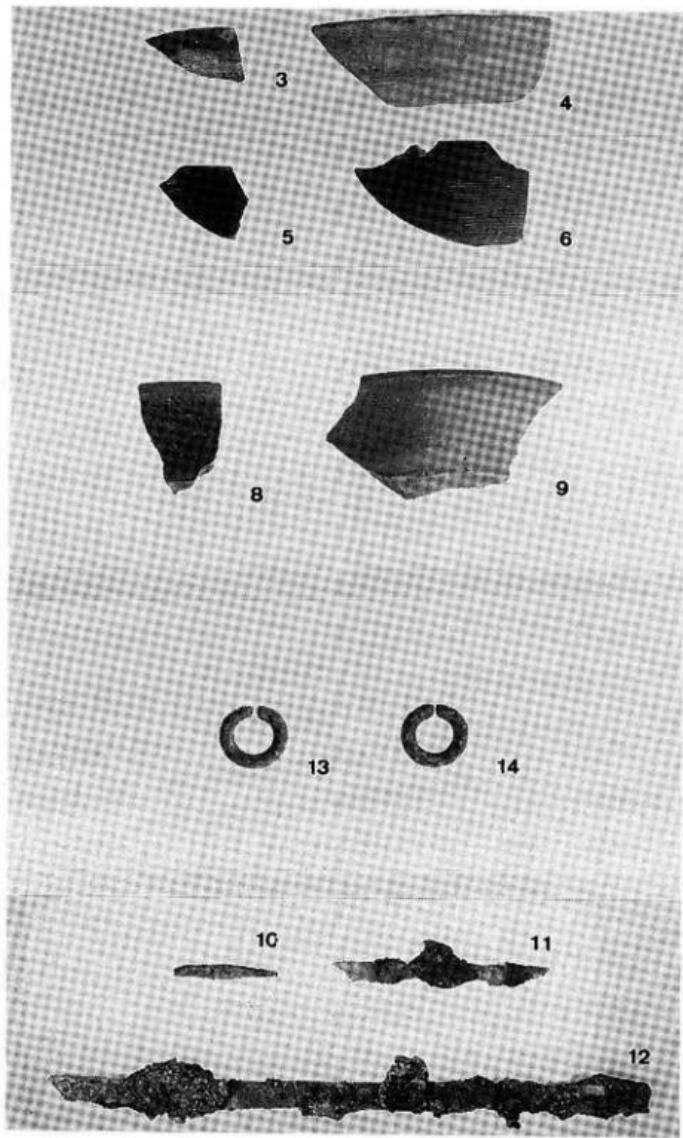
玄室内遗物出土状况

図版 7  
出土遺物(1)



図版 8

出土遺物(2)



北長迫横穴群発掘調査概報

平成 5 年 3 月発行

編集・発行 益田市教育委員会

島根県益田市常盤町 1 番 1 号

印 刷 西村印刷所

島根県益田市高津町 2543-58